



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



玉子と卵(の違い)

「玉子」と「卵」では、前者が料理上の表記に使われることが多いが「卵焼き」という表記もよく見かける。しかし実際には「卵」は料理前の「たまご」、生物学的な意味を示し、「玉子」は料理された食材の「たまご」を表すようだ。だから、例えば魚や鳥などが産む「たまご」の場合は「玉子」と書かずに「卵」と書く。

しかし、「ゆでたまご」は料理しているにもかかわらず、卵の形をとどめているためなのか「ゆで卵」「ゆで玉子」の両方の表記がある。この辺が日本語のあいまいさであり、また難しいところでもあろう。

サランラップ(商品名の由来)

サランラップはもともとは銃弾や火薬などを湿気から守るために開発されたもの。戦後、開発者であるダウケミカルスの2人の技術者がピクニックに行った際に、このフィルムにレタスを包んでいったことがきっかけとなり食品の保湿と保管としての用途が目ざされ、食品用ラップとして販売されることになったのである。2人の技術者の妻である「サラ(Sarah)」と「アン(Ann)」の名前にちなんで「サランラップ」と名付けられた。

日本では、旭化成ケミカルズが製造し、旭化成ホームプロダクツが販売している。



きんぴら(の由来)

きんぴらを漢字で書くと「金平」、この金平は古浄瑠璃のひとつである「金平浄瑠璃」の主人公「坂田金平(さかたのきんぴら)」に由来している。坂田金平は坂田金時(金太郎のこと)の息子で、非常に強くて勇ましい人物として伝えられている。

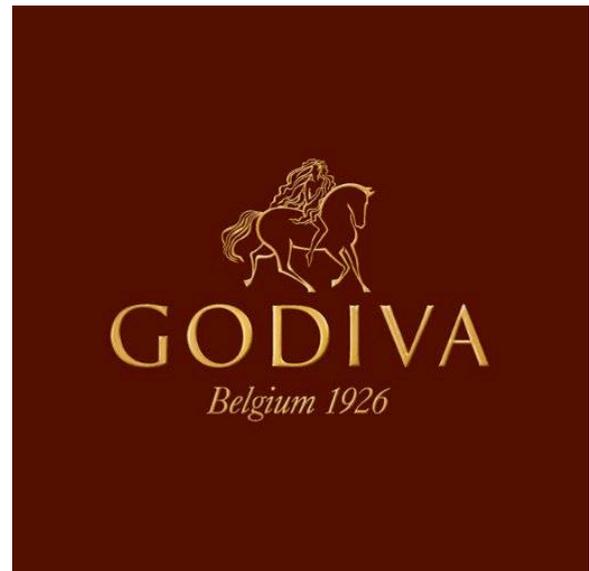
ごぼうの歯ごたえやウガラシの強い辛さが坂田金平に通じることから「きんぴらごぼう」という料理が生まれたのである。

ゴディバ(の由来)

高級チョコレートとして有名な「ゴディバ」は、11世紀のイギリスの伯爵夫人レディ・ゴディバの名に由来している。

レディ・ゴディバは領民への税を軽減してほしいと、重税を課していた領主である夫に願い出た。すると夫は「一糸まとわぬ姿で街中を回ることができたら、税を軽減してもよい」と言った。夫人は夫の言葉通り、裸のまま馬に乗り、街中を歩き回ったのである。

ゴディバの創業者であるジョセフ・ドラップスと妻のガブリエルは、レディ・ゴディバの苦しむ領民に対する愛情と勇気に深い感銘を受け、1926年ベルギーで立ち上げた自らのブランドに「ゴディバ」という名をつけ、馬に跨った裸婦をシンボルマークとしたのである。



「iPS 細胞」の「i」はなぜ小文字なのか

平成 18 年、山中伸弥教授率いる研究グループによって初めて作られた iPS 細胞(induced pluripotent stem cells、人工多能性幹細胞)、最初の文字「i」はなぜ小文字なのだろうか。

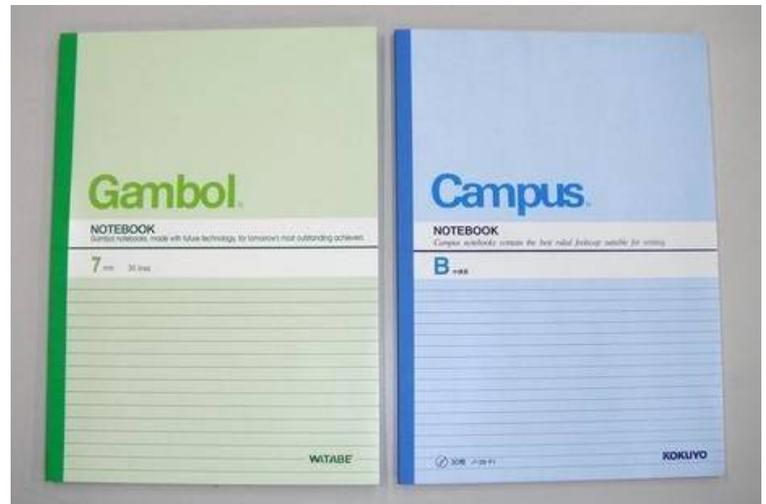
これは当時世界的に大流行していたアップル社の携帯音楽プレーヤー「iPod」のように普及してほしいという願いからである。山中教授は当初、ES 細胞(胚性幹細胞)のように覚えやすい 2 文字にしたかったのだが、思い浮かぶ 2 文字表記は他の物質で使われていたので 3 文字表記でもできるだけ 2 文字表記に近づけたいと考えたようだ。



中高生が使っても「大学ノート」

明治17年、現在の東大の近くにあった文房具店「松屋」が新しいノートを考案、品質の良い洋紙を使ったこのノートは高価だったため、「東京帝国大生くらい勉強のできる人でないと使えるものではない」ということで、大学ノートと呼ばれるようになった。

その後、ノートの評判を聞きつけた丸善が「大学ノート」の名前をそのままに制作し、全国に広めたものである。



(蛇足ながら)現在、大学ノートといえば、コクヨの「Campus」だが、中国では「Gambol(ギャンボル)」の名で売られており、最も有名なノートブランドになっている。実はこの「Gambol」、パクリ商品だったのだが、数年前にコクヨがM&Aし、上海で生産している。日中関係の悪化に伴う不買運動から、現在コクヨの中国事業を守るという効果をもたらしている。